安心を未来へつなぐ

舟形町立舟形中学校３年　　石川　晋乃介

最後の中総体を来月に控えたある日の練習中、僕の右腰に激痛が走った。サッカーでケガの多いポジションでもあるキーパー。熱の入り過ぎた僕は、ボールに向かって飛び込みゴールポストに衝突してしまったのだ。これまでも、突き指や打撲など何度も経験している。しかし、今回の痛みはレベルが違った。地元の整形外科では、いつも同様に打撲と診断されたが、いくら安静にしても痛みが軽減することはなく、まともに歩くことすら困難になった。焦り、イラ立つ僕を見兼た母が総合病院に連れて行ってくれた。ＣＴやＭＲＩ検査が行われ、医師から告げられた言葉は、「専門の病院を紹介します。痛みも強く、大会も近いようなので、早めに予約します。」目の前が真っ黒になった僕の肩を、母は無言で優しくポンポンと叩いた。母に背を向け、涙をこらえながら、これから治療や手術になったら中総体には絶対に間に合わないだろうという絶望と共に、隣に座っている、体調を崩し、職場復帰したばかりの母の負担にならないだろうか、ケガから一週間内で三つの病院を受診し、治療費や手術費はどのくらいになるのかと不安な気持ちでいっぱいになった。きっと両親は、僕に心配をかけないように本当の事は教えてくれないだろう。そうだ、兄に電話してみよう。昨年から警察官として働いている兄に救いを求めた。

「お前、毎年税の作文書く時、税金について勉強してるべ、なに心配してんだ。舟形町は診察だけでなくて、医療費の自己負担分も、入院費も助成になるはずだぞ。心配しねで、よっくどみてもらえ。俺の初任給で買ったキーパーグローブつけて頑張れよ。」

確かに、これまで何度も税金の使い道や、地元の舟形町の支援医療について調べた事があるが他人事で覚えていなかった。今回、当事者として、ホームページでサービス内容を確認すると新しい発見の連続だった。兄が学生だった頃、０歳から中学三年生までの子育て支援医療証は、現在十八歳までに拡大されており、病院での診察料や治療費、入学費や薬代、現在三回目接種を終えたコロナワクチンも税金によって助成されている。霧が晴れた。

検査の結果、『大腿筋の部分断裂』と診断された。怖くて逃げ出したかったが、局所ブロック注射も打った。主治医から、

「思いっきりプレーして来なさい。痛くて歩けなくなったら、僕が責任持って何とかしてあげるから。後悔しないようにね。」と言われ泣いてしまった僕。安心感と勇気を与えてくれた医師の言葉。金額を心配せずに治療出来た町の支援医療に感謝している。中総体の結果は残念だったが、出場出来た事が何より嬉しかった。コロナ禍で皆が不安や不満を抱えている時代だからこそ、将来、子供達に伝えたい。納税の意味について、そして、僕達大人が支えているから心配いらないよ、と。